





## 第 47 回 教育システム情報学会 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

2022 年度全国大会のテーマ・開催日・開催場所の予定が決まりました。

テーマ：	ニューノーマル時代のインクルーシブ教育を支える教育・学習支援技術
開催日：	2022 年 8 月 24 日（水）～ 8 月 26 日（金）
開催場所	新潟工科大学（新潟県柏崎市藤橋 1719）
（予定）：	<a href="https://www.niit.ac.jp/">https://www.niit.ac.jp/</a>

是非ご参加ください。大会の詳細は、随時 Web サイト等でご案内いたします。

### ■ 会場外観



### ■ アクセス

<https://www.niit.ac.jp/outline/basic/access/>

<JR 柏崎駅まで>

- JR 東京駅～JR 長岡駅まで上越新幹線で 100 分
- JR 長岡駅～JR 柏崎駅まで信越本線特急で 25 分、普通電車で 40 分

<JR 柏崎駅から新潟工科大学まで>

- 路線バス
  - JR 柏崎駅 南口 「柏崎駅南口～産業大～安田駅前線」 所要時間 15 分 工科大構内下車
  - JR 柏崎駅前 「久米線」 所要時間 20 分 工科大入口下車



## 第 47 回教育システム情報学会 全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内

教育システム情報学会 全国大会委員会  
委員長 小尻 智子

企画セッションは参加者にとって関心が高く、より詳細な研究テーマに焦点をあてたセッションです。以下のようにテーマを公募いたします。奮ってご応募ください。テーマが採用された方はオーガナイザになっていただき、発表募集の広報やプログラム作成、セッションの実施を行っていただきます。なお、お申し込みいただいた内容にしたがって全国大会委員会プログラム部会で審査をし、採否を決定させていただきますので、ご了承ください。

企画セッションの講演原稿のフォーマット、投稿方法、1セッションあたりの発表数、講演時間等は一般セッションと同じです。ただし、オーガナイザの裁量で1スロットにつき講演1件分を議論の時間にあてることができます。セッションの時間帯やスロット数は、大会プログラム作成時に全国大会委員会大会プログラム部会にて講演申込み数や全国大会全体の構成に応じて決定いたします。講演申込みは大会 Web の講演申込みサイトより、一般から公募いたします。また、企画セッションでの発表も大会奨励賞の対象となります。

企画セッションのテーマは一般セッションよりも特化したテーマに焦点があてられていることが望めます。テーマご提案の際には、一般セッション講演募集用のカテゴリ表を参考にしてください。

### ■オーガナイザにご担当いただく事項

- 発表募集の広報（企画セッションの概要は全国大会 Web ページに掲載されます）
- 企画セッションのプログラム（発表順）の決定

発表申し込み数によっては、一部の発表を一般セッションに移動する必要が生じます。

その際、オーガナイザには一般セッションに移動する発表を決定していただきます。

- 座長の選定

原則としてオーガナイザが座長をご担当ください。セッションが複数になった場合は、各セッションの座長を異なるオーガナイザで担当していただきます。

- 当日のセッション運営

### ■お申し込み方法

以下の項目をご記入の上、全国大会委員会プログラム部会 ([jsise-taikai-pc@jsise.org](mailto:jsise-taikai-pc@jsise.org)) 宛まで電子メールにてお申し込みください。

※送信後に投稿が保留された旨のメールが自動的に届きます。それとは別に後日受付の連絡をさせていただきますので、お待ちください。

- テーマ（企画セッション名）
- 概要（400文字程度）
- テーマが該当するカテゴリ、分野（カテゴリ表より選択、多くて2～3個を目安としてください）
- テーマが該当するキーワード（カテゴリ表中のキーワード）

- テーマ独自のキーワード
  - オーガナイザ全員の氏名と所属，代表者の連絡先（電子メールアドレスなど）
- ※オーガナイザは教育システム情報学会会員に限ります。

■ 申込期限

2022年2月18日（金）（2022年2月25日（金）までに採録結果を通知いたします）

議論観点	カテゴリ	分野名 (発表時にはここだけ選択してもらいます プログラム編成においてセッション名として 使います)	キーワード (分野選択時の参考にしてください。 ただし、各分野の発表はこれらに限るものではありません)
支援対象	設計	授業設計・インストラクショナルデザイン	授業研究, 学習理論, 教育方法, カリキュラム・デザイン, 授業評価, 授業実践, シラバス, 研修設計
		学習環境デザイン	デザイン研究, 学習科学
	教育・学習手法	遠隔教育	通信教育, 国際交流, 交流学习, 異文化交流
		ブレンディッド学習	反転授業, eラーニング授業利用
		連携型教育	小中連携, 中高連携, 高大連携, 大学間連携, 科目間連携, 地域連携, 産学連携
		協調学習	コミュニティ支援, コミュニケーション支援, グループ学習, ディスカッション支援
		アクティブラーニング	作問学習, PBL, クリッカー, アイデアソン, ハッカソン, ルーブリック, サービスマーケティング, テキストコミュニケーション, 社会人基礎力, 反転授業, 体験学習
	分析・評価	学習者特性・行動分析	ポートフォリオ, アフェクティブラーニング, 質的分析, 学習履歴分析, レディネス, 生体情報, レスポンス分析, 教学インスティテューショナル・リサーチ(IR), 質問行動
		学習評価・アセスメント	リフレクション, ルーブリック, テスト理論, 質的評価, 適応型テスト, 数理モデル, ピアアセスメント, グループワーク評価, パフォーマンス評価, 項目反応理論, 所見による評価
	対象別教育	HRD・生涯学習	リカレント教育, 社会人教育, 企業内教育/研修, 異文化理解
		高等教育	キャリア教育, 質保証, リメディアル, 初年次教育, ファカルティ・ディベロプメント(FD), 研究活動支援, ティーチングポートフォリオ, チュータートレーニング, 教養教育, 教職課程
		初等中等教育	言語活動, 教科指導, 授業実践, 教師教育, 情報モラル, 一人一台タブレット環境
	領域別教育	プログラミング教育	アルゴリズム理解, ビジュアルプログラミング, プログラミング言語教育, オブジェクト指向教育, ロボットプログラミング, WebAPI
		情報技術教育	ネットワーク教育, データベース教育, 組み込みシステム教育, モデリング教育, システム要件定義, 技術者倫理教育, ソフトウェア開発教育, IoT
		語学教育	日本語学習, 外国語学習, 聴解学習, 発話学習, 作文教育, 読解教育, 語彙・単語学習, 文法教育, エッセイライティング, 例文検索
		教科教育	教科情報, 数学, 国語, 理科, 社会, 音楽, 美術, 技術・家庭科
		特別支援教育	インクルーシブ教育, LD, ADHD, 発達障害, 院内学級, 身体障害, 知的障害, 視覚障害, 言語障害
		スキル学習	身体知, 経験知, 学習スキル, メタ認知, 問題解決支援, 批判的思考, 自己調整学習
		医療・看護・福祉教育	カウンセリング, ボランティア, 介護, 理学療法, 保育, 作業療法, スポーツ医学
		情報リテラシー	プレゼンテーション支援, コンピュータ操作, 情報倫理, セキュリティ, 情報モラル, 情報スキル, クラウドサービス活用
防災教育		レジリエンス, リスクマネジメント, 災害情報, 意思決定, 災害心理, 疑似体験, 避難訓練, 災害アーカイブ	
技術	ICT活用	マルチメディア活用	映像・音声配信/収録/活用, 電子教科書, 電子黒板, プレゼンテーションドキュメント
		ソーシャルメディア活用	ソーシャルブックマーク, SNS, BLOG, マイクロBLOG, チャット
		デバイス活用	モバイル, タブレット, ユビキタス, ウェアラブル, ヒューマノイドロボット, IoT
		プラットフォーム活用	LMS, eポートフォリオ, CMS, テレビ会議システム, コンテンツ共有
	技術開発・運用	プラットフォーム開発	LMS, CMS, プラグイン, CSCL, eポートフォリオ, eテスト, API, データフォーマット, デバイス, テレビ会議システム, クラウド利用
		インフラストラクチャ	認証, ネットワーク構築, センサネットワーク, クラウド, セキュリティ, システム連携, 仮想化, データ運用管理, 教材データベース, BYOD
		コンテンツ作成支援	コンテンツ・オーサリング, カリキュラム・オーサリング, コンテンツ自動生成, SCORM, LOM, 問題作成支援
	先進的学習支援技術	先進的学習支援	AI(人工知能), アフェクティブコンピューティング, エージェント, 機械学習, 情報検索, 適応的支援, ナビゲーション支援, リフレクション支援, 情報推薦, ゲームフィケーション, 外在化支援, 抽象化支援, 知識マップ
		分析技術	テスト理論, データマイニング, ラーニングアナリティクス, ビッグデータ
		モデリング技術	メタ認知, 学習科学, 学習者モデル, 認知ツール, 数理モデル, ドメインモデリング
ユーザインタフェース		仮想現実(VR), 拡張現実(AR), HCI, 視線入力, ヘッドマウントディスプレイ(HMD), ジェスチャー入力, 3D, 可視化, センサーデバイス, 音声入力, シミュレーション, マイクロワールド, 擬人化技術, アウェアネス, テレイグジスタンス, 力覚情報, ヒューマノイドロボット	
その他	その他	その他	



## 2021年度第6回研究会 開催案内

担当者： 尾崎拓郎（大阪教育大学）、浅羽修丈（北九州市立大学）、鷹岡亮（山口大学）、  
永田奈央美（静岡産業大学）、西端律子（畿央大学）、  
長谷川理（武蔵野大学）、山本樹（明海大学）、

■ テーマ：Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践

■ 開催日時：2022年3月21日（月）

■ 会場：オンライン開催

■ 趣旨：

COVID-19の拡大の影響により、教育現場においても急激な変化が生じました。当初は、緊急的に行われてきたデジタル化、オンライン化や、サイバー空間を利活用した新たな教育・学習環境において多くの実践がなされる中で、さまざまな経験知が蓄積されてきています。そして、日本が実現を目指す Society 5.0 の社会では、社会全体で持続的に新たな価値を生み出すことが求められており、ひとりひとりが Society 5.0 の担い手として活躍できるように、初等中等教育の各段階から新たな価値創造をするための能力の育成を行っていく必要があります。また、内閣府が提示している「AI戦略2019」においても、デジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能、新たな社会の在り方や製品・サービスをデザインするために必要な基礎力など、持続可能な社会の創り手として必要な力を全ての国民が育み、社会のあらゆる分野で人材が活躍することを目指し、2025年までに教育に各教育機関での教育目標が掲げられています。これらのことから、新たな価値創造をする人材育成のための「データサイエンス教育」について参加者の皆さんと考えていきたいと思えます。

そこで第6回研究会では、上記についての研究や議論を深めるため、「Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践」に関連する研究発表を募集します。対象は、データサイエンス教育の実践に限られませんので、データサイエンス教育に関係するシステムや、Society 5.0 に関わる学びのDX化等に寄与するシステムなどを開発・研究されているものなどについてもぜひご応募ください。

その他、教育の情報化に関連した研究発表や本学会の取り扱う領域における一般研究発表も幅広く募りますので、奮ってご投稿ください。

■ 発表申込締切：締め切りました。

■ 原稿提出締切：2022年2月17日（木）

■ 発表時間等：発表時間は25分（発表17分，質疑7分，入れ替え1分）を予定しております。

■ 発表申込および研究会への参加方法：

2021年度研究会より，研究発表および研究会参加には，研究報告の年間購読（4,000円/年）または各回の研究報告の購入（1,000円/回）が必要となります。ただし，聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

Zoom開催の場合のアクセス先は，申込受付メールに送信されるメールに記載してあります。

○ 発表者

発表申込および原稿提出は，下記「申込者ログイン」よりお願いします。

また，事前参加申込（研究報告の購入）は2022年2月18日9時に開始します。

開始時刻以降に，下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

○ 聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は，「申込者ログイン」での手続きは行わず，下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○ 上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は2022年2月18日9時に開始します。

開始時刻以降に，下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

申込者ログイン：<https://iap-jp.org/jsise/course3/login.php>

■ 研究報告執筆フォーマット：

研究報告執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■ お問い合わせ先：

大阪教育大学 尾崎拓郎（第6回研究会担当委員）

E-mail：[jsise-sig-6th\\_at\\_googlegroups.com](mailto:jsise-sig-6th_at_googlegroups.com)（「\_at\_」は，半角の「@」に変更してください）



## 2021 年度 特集論文研究会 開催案内

担当者： 学会誌編集委員会 委員長 瀬田和久（大阪府立大学）

- テーマ： 次世代の人材を育成するために変革する教育システム
- 開催日時： 2022 年 3 月 22 日 (火)
- 会場： オンライン開催
- 趣旨：

※本研究会は、学会誌特集号論文との連動企画です。

COVID-19 の影響により、各高等教育機関でのオンライン授業、BYOD が広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され、新たなカリキュラムや学習のあり方、学習環境の革新に向けて、教育手法が一層多様化していく中で、そうした時代に対応すべく教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています。ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。そうした社会システムの実現に向けて、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています。また、現在、大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中、専門分野を問わず、誰でも数理・データサイエンス、AI 活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています。本特集論文研究会では、このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします。

学会誌特集号論文の案内：[https://www.jsise.org/journal/cfp2022\\_offer.html](https://www.jsise.org/journal/cfp2022_offer.html)

- 発表申込締切： 締め切りました。

- 原稿提出締切： 2022 年 2 月 17 日 (木)

原稿の執筆・投稿にあたっては、以下のページをご確認ください。

- ・執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>
- ・研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>
- ・研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>
- ・オンライン原稿投稿：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■ 発表申込および研究会への参加方法

2021 年度研究会より，研究発表および研究会参加には，研究報告の年間購読（4,000 円/年）または各回の研究報告の購入（1,000 円/回）が必要となります。ただし，聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。研究報告は研究会開催日の約 1 週間前に公開されます。

Zoom 開催の場合のアクセス先は，申込受付時に送信されるメールに記載してあります。

○聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は，「申込者ログイン」での手続きは行わず，下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は 2 月 18 日 9 時に開始します。

開始時刻以降に，下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

申込者ログイン：<https://iap-jp.org/jsise/course4/login.php>

■ 映像収録について：

特集論文研究会は希望される発表者への閲読コメント作成のため，当日の閲読を希望されるオンライン口頭発表および，その質疑応答の様子をオンライン会議の録画機能を用いて，映像収録させていただきます。この点，あらかじめご承諾よろしくお願いいたします。

■ お問い合わせ：

特集論文研究会担当委員 後藤田 中（香川大学）

E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp（「@」の部分は，半角の「@」に変えて下さい）

★★ 多くの方のご参加を心よりお待ちしております！ ★★



## 2021 年度学生研究発表会開催案内（最終報）

担当者：人材育成委員会

今年度も学生研究発表会を下記の通り開催します。（申込・原稿提出〆切は2月8日です）

開催地区	開催日・開催形式および地区担当者・実行委員長・連絡先等
北海道	2022年3月3日（木） 開催形式：ハイブリッド（オンラインと現地開催）・ポスター発表無し 現地開催場所：公立千歳科学技術大学（状況によりオンラインのみに変更） 山本 裕一（北海道大学）・sierra@iic.hokudai.ac.jp
北信越	2022年3月6日（日） 開催形式：ハイブリッド（オンラインと現地開催）・ポスター発表なし 現地開催場所：信州大学 森 祥寛（金沢大学）・hse-submit@jsise.org 実行委員長：香山瑞恵（信州大学）
関東	2022年3月1日（火） 開催形式：オンライン開催・ポスター発表無し 辻 靖彦（放送大学）・山本 樹（明海大学）・jsise-kanto-sub@jsise.org
東海	2022年2月28日（月） 開催形式：オンライン開催・ポスター発表無し 実行委員長：星野雪子（名古屋産業大学）・hoshino@nagoya-su.ac.jp
関西	2022年3月1日（火） 開催形式：オンライン開催・ポスター発表あり 河野 稔（兵庫大学）・kawano@hyogo-dai.ac.jp
中国	2022年2月26日（土） 開催形式：オンライン開催・ポスター発表無し 岩根典之（広島市立大学）・iwane@hiroshima-cu.ac.jp
四国	2022年3月7日（月） 開催形式：オンライン開催・ポスター発表無し 米谷 雄介（香川大学）・kometani.yusuke@kagawa-u.ac.jp 実行委員長：岡本 竜（高知大学）
九州・沖縄	2022年3月8日（火） 開催形式：オンライン開催（九州・沖縄 合同開催）・ポスター発表無し 九州地区担当：浅羽修丈（北九州市立大）・n-asaba@kitakyu-u.ac.jp 沖縄地区担当：小渡 悟（沖縄国際大）・sodo@okiu.ac.jp

最新情報は、学会ウェブページにて更新していきます。ご不明な点は、発表希望地区の担当窓口にご確認ください。



## 2023 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会 委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」(予定)

論文投稿締切：2022年6月1日(水) (予定)

2023年4月1日 発行 (予定)

COVID-19の影響により、各高等教育機関でのオンライン授業、BYODが広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され、新たなカリキュラムや学習のあり方、学習環境の革新に向けて、教育手法が一層多様化していく中で、そうした時代に対応すべく教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています。ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。そうした社会システムの実現に向けて、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています。また、現在、大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中、専門分野を問わず、誰でも数理・データサイエンス、AI活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています。本特集号では、このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします。

### 1. 対象分野

Society5.0の実現のためにベースとなるSDGsでは、地球規模の課題解決に取り組み、社会に貢献できる人材を育てることが社会的使命となっています。農業・工業・医療等、あらゆる幅広い分野において、レジリエントな社会の実現に向けた価値観を育むDX(デジタル・トランスフォーメーション)が期待されます。今後のSociety5.0の発展を見据え、初等・中等から高等教育機関におけるAI教育、情報教育等に加え、リカレント教育も含めた社会の教育発展に寄与する先行的な取り組みに注目します。情報教育(デジタルリテラシー教育、IoTを利活用したサービスデザインの教育、教育の枠組み設計等)、また、地域活性化に向けた産学連携・産学官連携も含めた人材育成支援の取り組み等に関する発表を広く募集いたします。

### 2. 論文種別

すべての種別(一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報)の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

### 3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2022年3月22日(火))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

### 4. スケジュール

論文投稿締切： 2022年6月1日(水) (予定)  
採録通知予定： 2022年12月初旬まで (予定)  
学会誌 掲載： 学会誌Vo1. 40, No. 2, 2023年4月1日発行 (予定)

本特集号と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を開催します。是非、ご発表・ご参加ください。詳細は、今後の最新の開催案内(<https://www.jsise.org/society/committee.html>)をご覧ください。

特集論文研究会： 2022年3月22日(火)  
会 場： オンライン開催 (方式：Zoom による遠隔会議システムの利用を予定)  
発表申込 締切： 2022年1月27(木)  
延長の可能性がございますので、上記 Web ページをご覧ください  
原稿提出 締切： 2022年2月17(木)

### 5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)  
副委員長： 村上 正行(大阪大学)  
筆頭幹事： 後藤田 中(香川大学)  
幹 事： 高木正則(岩手県立大学)， 田中孝治(金沢工業大学)，  
山崎 治(千葉工業大学)  
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学)， 津森伸一(聖隷クリストファー大学)，  
山元 翔(近畿大学)  
委 員： 学会誌編集委員

### 6. 問い合わせ

全 般： 後藤田 中(香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp  
Web投稿： 編集事務局 電話： 03-5389-6492 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19  
株式会社国際文献社 長澤氏・山田氏・祁氏



## 「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会 委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

学会誌のコミュニティプラザ「博士論文紹介」は2021年より、各巻のNo. 3（7月1日発行）に集約をし、博士論文の紹介を総覧できる形式へ移行しました。複数の博士号取得者を一同に紹介することで「博士号取得者の研究テーマの動向を読者の皆様が一目で把握できる」「博士取得者同士が互いを知る機会として、交流を深めるきっかけとなる」などのメリットがうまれることを期待しております。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニューズレターなどを通じて、募集を行って参ります。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2022年7月1日発行予定となります学会誌 Vol. 39, No. 3 につきましては、【2022年4月22日（金）】を原稿締切の予定とし、募集を行ってまいります。また今回より、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートを新たに作成し、原稿および必要事項の提出に関しましても、Google フォームを用いて行うようにいたします。下記 URL よりご利用ください。

### スケジュール

原稿締切： 2022年4月22日（金）（予定）  
学会誌掲載： 学会誌Vol. 39, No. 3, 2022年7月1日発行（予定）

### 執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：

<https://drive.google.com/uc?export=download&id=1ZQLwCvdBb0RF7YCtXiBLk3rinKqe7Qsc>

原稿提出（Googleフォーム）：

<https://forms.gle/bjSbqUr8o4p646349>

### 問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 山崎 治（千葉工業大学）

E-mail: yamazaki@net.it-chiba.ac.jp

（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



## Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [ <https://www.j-itel.org> ]

日本教育工学会 (JSET) との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>) Vol.2 への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

### ○ 論文種別：

- 一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ) ,
  - 実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ) ,
  - システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ) ,
  - ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
- <これまでのショートノート (Short Note) と実践速報 (Report on Practice) を含みます>

### ○ 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。

### ○ 投稿要件：

- 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。

### ○ 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Author Guidelines) などがアップされています。

### ○ 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] [https://iap-jp.org/j-itel/journal\\_e/](https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/) >

- ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行ってください。
- 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行ってください。
- 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出してください。
- 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。

### ○ 査読方法：

- 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
- 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。

- 評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の4項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
- 投稿者の希望に基づいて、JSiSE 英文誌と同様に、日本語で査読コメントを受けることもできます。



## 第 5 回研究会開催報告

担当者： 光原弘幸（徳島大学）、佐々木整（拓殖大学）、三石大（東北大学）、  
高木正則（岩手県立大学）、鷹野孝典（神奈川工科大学）

■ テーマ：教育 DX と実世界指向学習環境／一般

■ 開催日：2022 年 1 月 8 日（土）

■ 開催会場：オンライン

■ 概要：

2022 年 1 月 8 日、本年度も徳島大学南常三島キャンパスで開催予定だった第 5 回研究会を Zoom によるオンラインにて開催いたしました。3 連休初日の開催でもありましたが、本研究会のテーマである“教育 DX”や“実世界指向学習環境”に関するシステム開発や実践等の様々な発表に加え、大学間連携の授業設計とその評価や教育データの分析、モデル駆動開発手法を用いたプログラミング教育等の創意工夫や実践に関する研究について、計 15 件の発表が行われました。また、全国から 48 名の参加があり、対面形式の研究会とほぼ変わらず、発表は全てスムーズになされ、非常に活発な討論が行われました。

最後に、発表者や参加者の皆様のご協力により接続トラブルなどもなく円滑に研究会を進行することができましたこと、この場を借りて担当委員より御礼申し上げます。ありがとうございました。

■ 発表タイトル一覧：

- 高齢者向け認知機能トレーニング用 Android アプリケーションの拡充-処理速度に焦点を置いた認知機能トレーニングゲームの開発-
- 小学校向け安全マップ活動支援システム -補助員向け資料作成機能の開発-
- 肢体不自由者のための自立支援アプリケーション-アプリケーションの改良-
- 嫌な勉強・仕事に「着手する」ためのスマホアプリに欲しい 機能のアンケート調査
- オンライン授業におけるコミュニケーション機会の差異が精神状態に与える効果の脳波・心拍変動を用いた客観的評価
- 大学連携授業におけるプロセス・エデュケーションの設計： フィードバックの心理的安全性への影響
- 実習型 e-learning システムを対象とした形式概念分析による 成績データ分析手法の検討
- SDGs 探究 MAP を使った高大連携講座におけるオンライン掲示板 Padlet 活用の効果
- アクティブラーニングにおける動画分析ソフトの活用の事例研究-クラウド提供型動画分析ソフトの大学教育における応用実践-
- 多数地点で撮影し VR 化した実在の教室や病室環境を用いる学修用教材作成の試み
- 地震疑似体験 VR における避難行動記録・再現による NPC 生成

- 課題管理機能を有する UML プログラミング環境の設計と実装
- 利用センサに対する汎用性の高い IoT 教材の設計と運用 -中学理科「植物のからだのつくりとはたらき」単元への適用事例-
- ニューラル音声を用いた日本語教育用 e ラーニング教材の提案
- モデリング教育支援環境におけるコンパイルサーバの機能と問題点の整理



## 研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 ([secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)) まで年間購読申込をしてください。

=====  
※研究会報告年間購読希望  
会員番号 (お分かりであれば) :  
お名前 :  
所属 :  
連絡先 e メールアドレス :  
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 ([secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

## 東海支部より活動報告

担当者： 長谷川 信（岐阜聖徳学園大）、山住富也（名古屋文理大）、  
津森伸一（聖隷クリストファー大）

JSiSE 東海支部では、2021年12月に、下記の通り、研究会を開催しました。  
以下の通り、ご報告いたします。

JSiSE 東海支部 2021年12月度研究会

共催：日本リメディアル教育学会 2021年度東海・北陸支部大会

1. 日程 2021年12月18日(土)

2. 方法 Zoomを用いたオンライン開催

3. プログラム

◎ 東海支部 役員会（13:00～13:20）

◎ 講演（13:30～15:00） 座長：津森伸一（聖隷クリストファー大学）

(1) 「行動解析を目指して」

伊藤 敏 先生（元岐阜聖徳学園大学）

(2) 「児童生徒1人1台端末における新しい学びとは？」

林 一真 先生（名古屋市立白水小学校）

◎ 研究発表（15:00～16:30） 座長：津森伸一（聖隷クリストファー大学）

(1) 「遠隔授業における英語授業の実践発表」

恒安 眞佐 先生（芝浦工業大学）

(2) 「歯学部入学前教育と初年次教育の相関関係

—初年次理系科目のGPA分析—

出野 由紀子 先生（神奈川歯科大学）

(3) 「中国の国語教科書に学ぶ作文指導の方法」

大野 早苗 先生（順天堂大学）

## 北信越支部より活動報告

### 北信越支部主催ワークショップ

#### 「成果発表を磨く」開催・募集のお知らせ

北信越支部では、広く教育工学、教育システム情報学を研究する学生・若手研究者の自己研鑽を支援するため、【成果発表を磨く】というワークショップを開催しています。

内容は、論文執筆を目標とした研究のまとめかたに関する講演とともに、学位取得を目指す博士生や論文投稿を目指している修士生による研究発表と、論文執筆と目標とした議論です。過去のワークショップでは参加者より、多くのコメントもいただきました。これらの様子は、北信越支部の Web サイトや Facebook にてご覧いただけます。また、数多くのコメントをいただいた博士課程学生の皆さんは論文採録 2 本、国際コンペ表彰 1 名、学位取得 4 名など、それぞれに成果をあげています。

本年度は以下の内容にて開催を計画しています。なお、本ワークショップは、全国の学生会員もしくは会員の皆様が指導されている学生を対象としたワークショップとなっております。

「成果発表を磨く」実践的な機会であり、研究に対する多くの有益なコメントをいただける機会です。併せて、学生研究発表会もありますので、学生の皆さんはこれらと合わせて是非ご参加ください。

#### ○北信越支部ワークショップ【成果発表を磨く】

開催日時：2022 年 3 月 6 日（日）

開催形式：オンライン開催，ポスター発表なし ※ COVID-19 感染拡大に伴い開催形式を変更

話題提供・討論概要：

申込者には、1 件あたり 50 分の時間が与えられます。

与えられた時間の中で話題提供と討論をしてください。

事前に予稿等の原稿提出は不要です。当日の資料配付等は可とします。

対 象：博士後期課程学生もしくは博士前期課程で論文投稿を目指す者

JSiSE 学生会員または JSiSE 会員に指導を受ける者

申込方法・〆切：2 月 1 日（火）

申込み、お問い合わせ先：北信越支部研究会担当 [hse-submit@jsise.org](mailto:hse-submit@jsise.org)

※ 話題提供のタイトル、氏名、連絡先、指導教員の氏名をお知らせください。

北信越支部 Web サイト：<https://www.jsise.org/~hse/>

北信越支部 Facebook：<https://www.facebook.com/jsisehse>

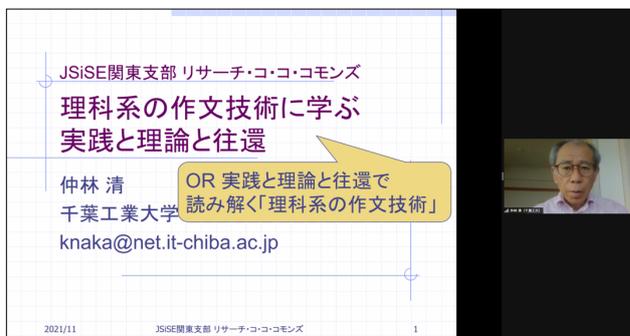
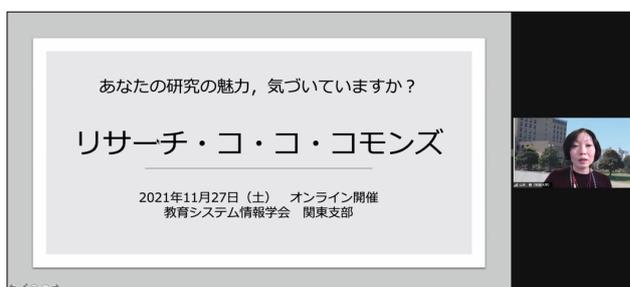
# 関東支部より活動報告

## 第3回リサーチ・コ・コ・コモンズ開催報告

担当者： 教育システム情報学会関東支部

関東支部では、連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「第3回リサーチ・コ・コ・コモンズ」を、11月27日（土）にオンライン上で開催致しました。2019年度に実施した第2回から2年ぶりの開催となります。今回は前回に引き続き、学生を対象に「自身の研究の魅力を再発見すること」をテーマとして開催し、関東・東北地区を中心に28名（教員13名・企業人4名・学生11名）が参加されました。

冒頭に、関東支部長の明海大学山本樹先生より趣旨説明があり、その後、二部構成で実施しました。第1部では「ベテラン研究者・企業研究者からのメッセージ」と題して、まず、企業での研究経験もあるベテラン研究者として千葉工業大学の仲林清先生から基調講演を、続いて株式会社インフラトップで活躍されるとともに公立千歳科学技術大学で社会人博士課程学生として学ばれている高野泰臣様と、東京工業大学博士後期課程で博士号取得後、東京工業大学発ベンチャー称号を受け起業され、ご活躍されているBRAIN SIGNAL株式会社代表取締役社長兼CEOの米川孝宏様のお二人から企業研究者の立場で招待講演を頂きました。講演では学生時代の研究の経験をその後の進路でどのように活かされてきたのか、今学生に取り組んで欲しいことなど学生に熱いメッセージを頂きました。



第2部では「魅力 Aware / Share / Deeper セッション」と題して、参加学生による2セッション合計11件の研究紹介と、それぞれの研究の良い点、発表者本人も気付かないと思われる発展や応用の方向性について、積極的な議論がなされました。通常の研究会とは異なる「褒めて（研究を）伸ばす」、「褒めて（自分自身が）伸びる」というコンセプトの下での議論に、参加者一同が苦戦しつつも、ポジティブな雰囲気の中セッションが進行しました。

今回、ご講演・ご発表頂きました皆さま、及びご参加頂きました皆さまに厚く御礼申し上げます。

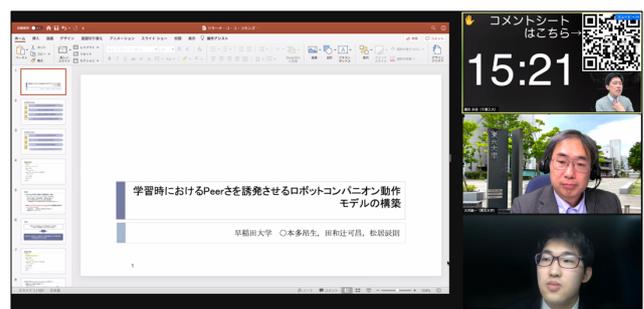
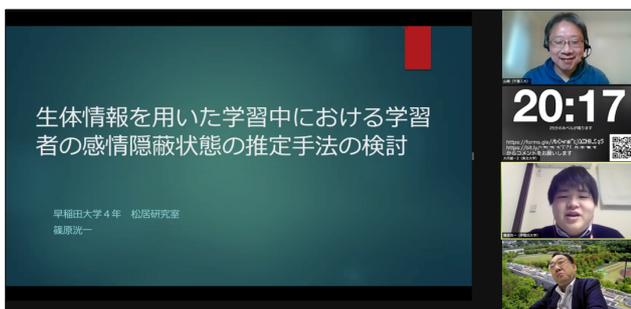
今後も関東支部では、学生の育成および教育実践の現場との連携を視野に入れた学術イベントの企画実施を進めていきたいと考えております。

◇第1部：ベテラン研究者・企業研究者からのメッセージ

- ・基調講演『『理科系の作文技術』に学ぶ実践と理論と往還』  
仲林清 先生（千葉工業大学）
- ・招待講演「学生時代とその後のキャリア」  
高野泰臣 様（株式会社インフラトップ／公立千歳科学技術大学）
- ・招待講演「やりたいことをやる。いつも今が大事。」  
米川孝宏 様（BRAIN SIGNAL 株式会社）

◇第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

- ・プログラミングの知識共有プラットフォームにおけるコード評価機能の検討  
前田新太郎（東京工芸大学大学院工学研究科）
- ・ビジュアルプログラミング環境 AT における C 言語プログラミングへの移行支援機能の開発と評価  
平野晶（千葉工業大学大学院情報科学研究科）
- ・振る舞いのトレースを通じて プログラムの機能の理解を促す支援システムの提案  
松為泰生（東京工芸大学工学部）
- ・ベクトルを対象とした数学的表現変換機能を用いた誤りの可視化による学習支援システムの提案  
十文字智人（東京工芸大学工学部）
- ・ロボットとの相補的な教え合いによる適応的な英文法学習支援  
佐藤孝史（電気通信大学）
- ・生体情報を用いた学習中における学習者の感情隠蔽状態の推定  
篠原洗一（早稲田大学人間科学部）
- ・計算課題におけるフロー状態と解答の入力形式に関する定量的分析  
千葉壮一郎（早稲田大学人間科学部）
- ・発言の仕分けに着目したファシリテーション学習手法開発と評価  
新目紗也（千葉工業大学大学院情報科学研究科）
- ・ナンバープレースパズル初学者を対象とした推論規則の学習支援システムの提案  
保永治輝（千葉工業大学情報科学部）
- ・学習時における Peer さを誘発させるロボットコンパニオン動作モデルの構築  
本多昂生（早稲田大学人間科学部）
- ・オンラインミーティングにおける会話の衝突抑制に関する構想  
長尾由伸（千葉工業大学）



## 関西支部より活動報告

担当者：教育システム情報学会 関西支部

2021年11月20日（土）に、8団体の共催で第17回情報教育合同研究会をバーチャル会場にて開催しました。115名のご参加をいただきありがとうございました。

テーマ：創造社会を支える情報教育 ～小・中学校で学んだ情報教育のバトンは情報Ⅰに～

GIGAスクール構想が本格的に稼働し、小学校でのプログラミングを含めた新しい情報教育が中学校で具体化され、高等学校で新科目「情報Ⅰ」として集約し、2025年から大学入学共通テストで「情報Ⅰ」が追加というように、情報教育も小～大へ繋がる一本の道筋が完成することになりました。このような状況を踏まえて、校種や研究会の枠を超えて議論を深めることができると考えました。

【メインプログラム】2021年11月20日（土）10:00-17:00

[ワークショップ]10:00～11:50（同時開催）

- (1)Scratch+micro:bitによるプログラム作成
- (2)AI（機械学習）を活用するScratchプログラミングを体験してみよう
- (3)ブロック言語によるmicro:bitのプログラミングとJavaScriptとPythonとの対応
- (4)返り値のある関数に挑戦しよう！

[研究発表]13:00-14:00（同時開催）

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| I オンデマンド発表（1件）         | II プログラミング教育（3件） |
| III プログラミング教育・遠隔授業（3件） | IV 遠隔授業のデザイン（3件） |

[全体会]

講演Ⅰ「GIGAスクール構想の実現に向けて」

- ①小・中学校の取組「丹波篠山市の取り組み～1人1台PC導入後の活用状況及び課題等について」
- ②高等学校の取組「大阪府立高校での取組状況」

講演Ⅱ「情報Ⅰ・Ⅱへとつなぐ情報教育のリレー」

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官（併）文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課/教育課程課情報教育振興室 教科調査官 参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 教科調査官 田崎 丈晴 先生

講演Ⅲ「大学入試共通テスト「情報Ⅰ」に向けて～サンプル問題を中心に～」

独立行政法人大学入試センター 試験問題調査官 水野 修治 先生

【自由企画】①「はな金リレートーク」10月29日（金）～11月19日（金）20時～22時、全4回、「タブレット端末の日常使いと子どもたちの自律について」、「ICT活用の実践と課題について」「リモート環境下のプログラミング教育について～Google Classroomを使って～」、「デジタル関連部活動の活性化について」、②「秋の夜長をプログラミングで楽しみませんかーオンデマンド型Scratchワークショップー」、10月22日～11月19日（金）オンデマンド

## 広報からのお知らせ



### Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局（[secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)）へお願いします。また、Facebook アカウントとの連携も行っており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用（フォロー）ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2022年1月24日現在、フォロワー数 255 アカウント



### Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2022年1月24日現在、いいね 483 件、531 人フォロー



## 他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「スマートライフ 2022 年大会」

日時：2022 年 3 月 11 日（金）・12 日（土）

会場：オンライン開催



## 国際会議のご案内

- 2022年4月開催

SITE 2022: 33rd annual conference of the Society for Information Technology and Teacher Education

開催期間 : April 11-15, 2022

開催地 : San Diego & Virtual

URL: <https://site.aace.org/conf/>

- 2022年6月開催

EdMedia + Innovate Learning Summit

開催期間 : June 20-23, 2022

開催地 : New York City

URL: <https://www.aace.org/conf/edmedia/>

- 2022年8月開催

IFIP WCCE 2022: World Conference on Computers in Education

開催期間 : August 20-24, 2022

開催地 : Hiroshima

URL: <https://wcce2022.org/>

- 2022年10月開催

SITE Interactive 2022

開催期間 : October 5-6, 2022

開催地 : Online Conference

URL: <https://site.aace.org/online/>

- 2022年11-12月開催

ICCE 2022: 30th International Conference on Computers in Education

開催期間 : November 28 - December 2, 2022

開催地 : Kuala Lumpur



## 会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

### ■振込先

#### ◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガツカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガツカイ

#### ◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガツカイ

#### ◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガツカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（[secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。  
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

## 【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



## 会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 ([secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 ([secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

### ☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料に**させて頂くというキャンペーンを行っております。  
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



## 新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2021年11月19日～2022年1月19日)

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
宮田 真宏	正会員	須曾野 仁志	正会員
江崎 由利子	学生会員	竹内 寛典	正会員
大山 智也	正会員 (購読)		

(計 5 名)